

情熱で掴む一步



情熱で掴む一步

～スカーレットの挑戦～

文責：Haruki Ogawa Yuya Fukuda

What's アルティメット？

皆さん一度はフライングディスクを投げたことがあるだろう。一般的にフリスビーという名称で普及している回転させて投げる円盤である。フライングディスクを用いた競技はいくつかあり、その一つにアルティメットが挙げられる。

アルティメットは、1960 年代にアメリカで発祥した比較的新しいスポーツで、フライングディスク競技の中で“走る・投げる・跳ぶ”といった様々な能力が要求される「究極」のスポーツと言われている。1 チーム 7 人で行われ、おおよそサッカーコートを縦に半分にした大きさ (100m × 37m) のコートの中で、パスを繋ぎながらエンドゾーンを目指す。

“Spirit of the Game (スピリット・オブ・ザ・ゲーム)”

というスポーツmanshipを最重視するルールに基づき、審判を置かず選手によるセルフジャッジ制を採用している点が、他のチームスポーツにない特徴である。



“スカーレット”的魅力

“スカーレット”が練習する本学の多目的広場では、普段の練習から男女が一緒に練習を行っており、いつも楽しそうな声が聞こえてくる。なぜなら、アルティメットには他のチームスポーツでは珍しい男女混合のミックス部門の大会が多く行われており、“スカーレット”もそれらの大会に積極的に出場しているためである。

また、指導者不在を逆手にとって、一人ひとりがチーム運営に携わることができる学生主体の活動を大切にしている。例えば、学生のミーティングは、実習などで忙しい学生もいるため空きコマに実施するなど工夫しながら、学科の垣根を超えて活動している。楽しみながらも技術力向上を目指すことはもちろんあるが、男女・学科を問わず柔軟な活動を行えることが、“スカーレット”的魅力のひとつといえるだろう。



チーム紹介

2019 年度で 4 年目を迎える。チーム名の由来は “情熱的” という意味の “Scarlet” から来ている。4 年生 6 名、3 年生 6 名、2 年生 18 名、総勢 30 名（男子 19 名、女子 11 名）で活動中。創設から現在まで指導者不在の為、学生主体で活動を行っている。2019 年度よりサークルから部に変更予定。

ゼロからのスタート

2016 年、新潟医療福祉大学にアルティメットサークル “スカーレット” が誕生した。しかし、現在に至るまでの道のりは困難なものだった。

チームの立ち上げは、佐藤敏郎先生（健康スポーツ学科・教授）の授業内でフライングディスク競技の紹介があり、先生がアルティメットに触れる機会を設けてくれたのがきっかけだった。その後、現在チームの主力選手でもある藤枝さんと豊崎さん（ともに健康スポーツ学科・4 年）らを中心に、10 人程度でチームはスタートした。しかし、指導者不在、さらに全員未経験者でルールや練習方法も分からないなど、全てがゼロからの出発だった。



チームの成長

チーム創設から現在まで “スカーレット” はどのように活動を行ってきたのか、藤枝さんと豊崎さんに伺った。

当初は、マイナー競技の為なかなか練習方法が分からず、インターネットで調べたものの、詳細な情報が見つからなかったという。そこで、「パスを繋いで得点を目指す」という競技特性に立ち返り、正確に相手へ投げる練習を約一ヶ月徹底して行ったと当時を振り返ってくれた。創設から一ヶ月後、初の県外遠征で富山の交流大会に出場したことが“スカーレット”に大きな変化をもたらした。その大会で様々な経験者と交流し、練習方法を教えてもらうことができたのだった。

その後の大学の練習では、遠征に参加したメンバーが他のメンバーにアドバイスを行いながら取り組んでいくことができ、その結果、練習方法のバリエーションが増え、チーム全体のレベルアップに繋がっていった。また、それをきっかけに個人で他県の大会に出場する選手が現れ、彼らはそこで得た経験をチームに還元することで、チームの成長に大きく貢献していった。



これからへの使命

日々精力的に活動を続ける “スカーレット” だが、その先には「新潟県のアルティメットの発展」という使命がある。現在、新潟県のアルティメット人口は少なく、県内で開催される大会も限られているため、県外の大会に参加しているのが現状だ。しかし、そこで結果を残すことができれば、“スカーレット”的魅力を知ってもらうことができ、新潟県のアルティメットの発展にも貢献できるはずである。

また、アルティメットの普及活動にも積極的に取り組んでいる。2018 年度は、子供向けのフライングディスク教室を学内で開催し、多くの子どもたちに参加してもらえた。このような取り組みは地味であるものの、次世代が “スカーレット” というスポーツに触れる機会を増やし、興味関心を持つきっかけとなる非常に重要な活動といえるのないだろうか。

今後も、自分たちの楽しみだけではなく、アルティメットの発展にも目を向けながら活動する “スカーレット” に注目していきたい。